

年末市長訓示

平成27年12月28日（月）午後1時
本庁舎8階 大会議室A

平成27年の仕事納めにあたり、本年の締めくくりとして、職員の皆さんにお話しさせていただきます。

今年は、市町村合併から10年目という節目の年でした。

仕事始め式において、10年間でやろうとしていたことをしっかり仕上げていく最後の1年だということを申し上げ、さらにステップアップした次の段階に向かう10年にするために今年1年しっかりと頑張りました。ということで、「進行中の事業を着実に進める」、「懸案となっている課題の解決を図る」、「地域との連携を強化する」という3つの目標を掲げました。

今年1年間を振り返りますと、皆さんが私の考え方をしっかりと受け止めていただき、様々な政策課題に真剣に向き合い、取り組んでいただいたことで、その努力が目に見える形で姿を表した1年であったと感じています。

まず、「進行中の事業を着実に進める」についてですが、4大プロジェクトは、新斎場「いつくしみの杜」が1月2日に業務を開始

しました。

産業・スポーツセンターは、今年の４月に工事を着工し、再来年の１０月のオープンを目指し、工事が順調に進んでいます。この施設をより多くの方にご利用していただくため、また、大規模な大会の誘致に向けて、使用申請の可能時期を大幅に前倒しして、既に９月から受け付けを始めています。

また、地元の皆さんはもちろん、多くの津市民の願いでもありましたＪＲ名松線は、来年の３月２６日に全線で運行が再開することが発表されました。

新最終処分場・リサイクルセンターについても、来年４月の供用開始を予定しており、４大プロジェクトは非常に大きな歩みを進めた１年でありました。

道の駅 津かわげについては、指定管理者も決定し、来年４月２４日のオープンに向けて工事が最終段階となっています。

久居中央スポーツ公園内のプールは、７月１１日にリニューアルオープンし、この夏の入場者数は合併後最大となりました。

また、教育環境の整備では、小学校３校と中学校１校のトイレの洋式化を行うとともに、プレハブ校舎の解消に向け、南が丘小学校は工事を開始し、西が丘小学校では工事に向けた設計を行っています。

さらに、児童数の増加に対応するための戸木小学校の増築工事、再来年

の４月の小中一貫教育に向けた美里中学校の校舎の整備も進めています。

安全・安心なまちづくりに向けては、消防救急無線をアナログ方式からデジタル方式へ移行し、４月１日から県内初の運用を開始しました。

また、河川の水位上昇に伴う避難勧告等の発令基準が不明確であった、市内を流れる１５の中小河川については、市独自の避難勧告等の判断・伝達マニュアルを作成し、６月から運用を開始しました。

そのほか、津市バイオマス産業都市構想に関連して、植物防疫法の規定に基づく津港の指定港化については、１０月に国において指定港に加えられ、木質バイオマス発電事業をさらに加速させるものとなりました。

また、上下水道局は、上下水道事業管理者のもとに水道局と下水道局を設置したことで、公営企業としての上下水道事業の連携強化と効率的な経営が図られることになりました。

さらに、２月８日に中勢バイパスの津（野田）工区から津（久居）工区の７．９ｋｍが開通し、河芸町三行から木造町まで延長２０．６ｋｍを南北に貫く市内の大動脈が３０年を経てようやく完成しました。

また、道路の幅員が狭く、急カーブや急勾配が連続していた矢頭峠については、全長１，６３７ｍの矢頭トンネルが８月１７日に開通し、一志町波瀬から美杉町下之川を結ぶ県道一志美杉線が大きな第一歩を踏み出しました。

このように進行中の事業が着実に進んだ年でありました。

次に、「懸案となっている課題の解決を図る」についてでは、子ども・子育て支援の充実に向け、４月１日に児童発達支援センター「つうぽっぽ」を、同月４日には全天候型親子遊び空間「げいのう わんぱく」を開設しました。げいのうわんぱくについては、独自に工夫した面があり、これまでに約３万７千人の方にご利用いただいています。

また、久居駅周辺地区のまちづくりについては、１月に久居庁舎がポルタひさいに移転して業務を開始し、４月に久居駅周辺地区都市再生整備事業として、国から社会資本整備総合交付金の内示を受け、久居駅東口や市道新町野口線の整備に加え、（仮称）津市久居ホールの建設、久居市民会館跡地への久居交流広場の整備など、副都市核としての取組がスタートしました。

最後に、「地域との連携を強化する」についてでは、４月の組織改正により市民部に地域連携課を設置し、地域毎に専属の担当者を配置したことで、地域の皆さんからご信頼をいただけるようになりました。地域の皆さんにとって、自分の地域のことをしっかりと考えてくれる窓口ができたことで、ご安心いただきつつあると思います。

そして、１０月１日からは、市内３７地区で実施する地域懇談会をスタ

ートしました。地域における様々な課題やこれからまだまだやらなければならないこと、また、今一つ踏み出せていない課題を聞かせていただいています。

このように、この１年間で数多くの施策が実を結び、形になったのは、職員の皆さんがそれぞれの職責を果たしていただいたからであります。それに加えて、皆さんひとり一人が、今年、自らの手で策定した職員行動規範に掲げた理念や思いを常に意識して持ち続け、それに基づいて、一つひとつの仕事出来るようになったことが大きなポイントだったと思います。

自分たちでセルフコントロールをできるようになってきた、それが１０年経った市役所の姿であります。

そして、それを私が認めるというよりも、皆さんのこうした姿勢や行動が認められることがありました。２０１５ＣＲＭベストプラクティス賞を民間の団体から受賞する事ができたことが何よりの証拠であります。

職員行動規範を当たり前のように実践していただければ、それが津市役所の総力となり、市民の皆さんにご満足いただける市政運営に繋がっていくんだと確信をしています。

さて、この２０１５年は、私にとりましては、４月の選挙で再選をさせて

いただき、２期目の前葉市政をスタートさせる年となったわけであります。

５月の所信表明では、これからの４年間に於いて、市民の皆様へ「合併してよかった」と思っていただけまちづくりを進めるため、市民のために、地域のために「もっとできること」を実行していくと申し上げました。

既にいくつかの「もっとできること」を手掛けていただいております。

例えば、大谷踏切の拡幅については、平成１０年に協定が結ばれていたにも関わらず、出来るはずなのに出来ていなかった。一車線相互通行のため、慢性的な渋滞を抱えていましたが、いよいよ拡幅に向けて事業化することとなりました。

小中学校の普通教室へのエアコン設置については、整備方針を決定し、来年度から年間１５校から１６校づつ、５年間でやり遂げようということを決めました。

また、モーターボート競走事業の経営回復によりまして、１２年ぶりに一般会計への繰り出しを復活する方針を示すことができました。

こうした取組をいち早く、選挙を終わってすぐに始めてくださった。

これも職員の皆さんが理解し、これらの取組については、出来るだけ早くやっていくんだと向き合っていたいただいた成果であると感謝しています。

最後になりましたが、一年間の業務、大変ご苦労さまでした。

今年もあとわずかになりましたが、頑張っていたご自身を^{ねぎら} 労い、ご家族とともに心身をゆっくりと休めてください。

年末年始の休暇期間中にもかかわらず職務に従事をしていただく職員の皆さんには誠に御苦労さまですが、よろしく願いいたします。

職員の皆さん、そして、御家族にとって、来年が今年にも増して、さらに良い年となりますことをお祈り申し上げます。

一年間、本当に、ありがとうございました。